

平成24年度 佐賀県スカウト技能大会(スキルサーキット)及び
ベンチャースカウト大会を終えて

県コミッショナー 枝吉和彦

私を感じ取ったことをお知らせします。

1. 企画内容について

昨年の技能大会(野外料理)に引き続いた技能大会としました。

主な趣旨は、

- ①スカウトのスキルアップを図る。
- ②スカウト達の意思を尊重し、スカウトの自主性を育む。
- ③来年の16NJ、その後の23WSJを見越し、それに十分対応できるスカウトを育成する。

でした。これについては、私はある程度の目標達成ができたと感じています。それは、帰路につく自隊のスカウトの明るい笑顔、いかにも困難を乗り越えたというような目の輝きなどの表情や、彼らの楽しいそうな会話などからそれらを汲み取ることができました。

2. 日程について

スカウトが参加しやすいようにと、従来の日程をずらした日程とし、3泊4日で行いました。お盆に掛かったこの日程については賛否両論あるようですので、次の企画の時には十分に検討して取り組む必要があると思います。しかし、これまでこの日程では取り組まれたことがなかったわけですから、「この日程でよかった。」という意見の存在は重要かと思います。

3. 実行委員会方式について

近年、このやり方では行なわれておりませんでした。より多くの指導者等の皆さんに行事への参画を促すことを目指してこの方法で取り組みました。

「会議の中で意見を述べても、県連執行部より『○○をお願いします』という一言で終わり、他の方の意見が聞けず、県内の指導者みんなで作り上げようという雰囲気にはなれなかった。」という意見・感想もありましたが、ある程度のイニシアチブを持って進めなければ物事がスムーズに進んでいかないことも事実ですし、各部が自ら進んで取り組むといった姿勢が少なかったこともあり、こちら主導で進めて行かせていただいたところもありました。

総じてこの取り組みは良かったと思っており、今後もより多くの行事に、より多くの成人指導者の皆さん方に参画していただければと思っています。

4. 大会での運営・組織について

総務・行事・野営管理・配給・救護衛生の各部と4つの野営区で運営しましたが、それぞれでの役務の認識不足があったのではないかと感じています。形としては

良かったと思いますが、今後はその中身を充実させることが必要だと思っています。

5. 取り組みや準備期間について

3月6日に下見をし、3月30日にグリーンバーの下見、4月8日に第1回実行委員会を開きましたが、結果として準備不足となり、それは大会までの時間が少なかったからではないかと思っています。構想・企画から各隊指導者やスカウトへの十分な理解を得ようとするには、やはり少々時間が少なかったようです。もっと早めの取り組みが必要でした。

7. 準備から大会期間中のことについて

(輸送について)

資器材の搬入計画、搬出計画が明確に示されなかったことは残念でした。各隊から期限までに計画が提出されなかったことも影響しているのではないかと思います。また、膨大な資器材を搬入した隊もあり、輸送手段が限定された今大会を考えると再考願いたいものでした。

(行事について)

初めての試みのプログラム企画(スカウトが自ら考えたプログラムとすること)や「野営技能コンテスト」などもあり、担当部員さんにはご苦労をおかけしましたが、こういうのが本来のスタイルではないかと思っています。

朝礼など各種セレモニーでは、残念ながらスカウトの基本動作(服装も含めて)の乱れが気になりました。服装点検、弥栄、国旗の揚げ降ろしなど、原隊で日頃から十分な訓練をお願いしたいと思います。

営火ではその出し物として「ゲーム・クイズ」みたいなものがありましたが、スカウト営火についてもどういうものが望ましいのか、どうあるべきかということについても再考願いたいところです。

(救護衛生について)

大きな事故や急病人は出なくて幸いでした。スタッフに期間を通して医師として対応していただいたのは安心できました。もう少し看護スタッフなどを充足できれば良かったかなと反省しています。

期間中、シャワーを浴びていないスカウトも多く見られたようですが、「衛生」の観点が希薄になりがちではないかと懸念されるところであり、その部分のチェック体制をしっかりと作り上げること、「自らの安全と衛生は自らが守る」という教育が必要であると痛感しました。

(野営管理について)

設営から撤収完了までの安全・快適な野営の管理がなされなければなりません。その存在が薄かったように思います。

(配給について)

新たなスタイルでの取り組みでしたが、担当部員さんには大変なご苦勞をおかけしたと思いますが、大きなトラブルもなく円滑に配給業務をこなしていただきました。今後もこのシステムで取り組めるよう、ノウハウの蓄積とより一層の改善をお願いします。

8. ベンチャー大会について

企画の時点から彼らにどのような大会にするのか、どのような取り組みをするのかなどについて自分たちで話し合うように伝えてきましたが、なかなか思うようには動いてはくれませんでした。やむを得ず、大会に集まって来たスカウトで話し合うようにするしかなかったというのが実情です。指示がなければ動けないスカウトではなく、自らの意思で動いて行く自立したスカウトの育成は一朝一夕にはできないものだと思います。より一層のご指導をお願いします。

9. 総括

日本連盟の奥島理事長は常々こう述べられています。「少年は、きついこと、つらいことを乗り越えてこそ伸びていく。スカウティングは理論ではない。実践あるのみだ。」と。これらの理念は今初めて語られているわけではなく、これまでもずっと語り継がれてきたことなのです。しかし今、この理念を我々は改めて心に刻み、スカウトの指導に向かわなければならないのではないのでしょうか。かれらに「魚」を与えるのではなく「魚の釣り方」を教えていくべきです。困難を乗り越える喜びを奪うのではなく、与えるべきです。わくわく、ドキドキする冒険を奪うのではなく、その機会を作ってやるべきです。その勇気を持ちましょう！この大会は、スカウトにも我々指導者にもそれらを与えてくれたと思っています。これを礎にしてこれからの佐賀県のスカウティングを進めていきたいと思っています。無事に大会を終えることができましたことは、皆様方のご協力によるものだと感謝申し上げます。ありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくご協力をお願いいたします。